

母の爲め子の爲め

(歐羅巴に於ける母の保護及嬰兒保護)

倉 橋 惣 三

一
文明の進歩と共に、幼兒死亡率は各國共に、甚しく増加して來た。元來、出生後一ケ年間の死亡率が他の年齢に於ける死亡率に比して、比較的大なることは謂はゞ人生普通の現象で、古來必ずしも異とするに足らぬのである。然しながら、其の過度の増加は、云ふまでもなく國家の人口に影響するところのものであつて、常に一家庭に於ける個人的悲哀事たるのみならず、國家の消長に關する重大なる問題になる。而して其の悲しむべき原因をなすものは、一にして止まらない。社會の發達に伴ふ各人の心身の過勞、殊に生活問題の窮迫

を最大の原因とし、分れて種々なる社會的、或は個人的原因を生ずる、而も生活難によつて蒙る母親の迫害は、其の最も直接なる原因を爲すものである。殊に十九世紀末より婦人の工場勞役は益々其の數を多くし、これに依つて自ら生ずる出産前後の免れ難き不攝生は、幼兒死亡率をして見すゝ劇増せしむるの因をなすものである。母親が出産の前後に於ける適當なる休養攝生の必要は、如何なる貧しき婦人と雖も、これを知るのである。而も其の窮迫せる生活は、將に生んとする愛兒の爲めに、當然の顧慮をなすの餘裕だも無いのである。即ち、よく生まんよりは、よ

生(い)さん爲(た)めに、其(そ)の勞(らう)役(やく)を一日(いちにち)も廢(はい)し得(え)ざるの
である。また一方(はう)には被(ひ)雇(や)者(しゃ)を以(も)つて、機(き)械(かい)の如(ごと)
く思(おも)ふ冷(れい)酷(こく)なる工(こう)場(じやう)主(しゆ)の打(だ)算(ざん)は、これ等(ら)の憐(あは)れ
き母(はは)をして、よく生(な)ましむる爲(た)めに、暫(しば)ら生(せい)
安(やす)んせしむるの慈(じ)愛(あい)だも有(あ)りないのである。茲(こゝ)
於(お)いて、これ等(ら)の薄(はく)倖(じやう)なる母(はは)をして、よく生(な)まし
め、其(そ)の可(か)憐(れん)なる幼(えう)兒(じ)をして壯(さう)やかに生(せい)育(いく)
るの問(もん)題(だい)は、個(こ)人(じん)的(てき)問(もん)題(だい)に非(あら)ずして、社(しゃ)
會(かい)的(てき)攻(こう)究(きゆう)とならざるを得(え)ないのである。ジヨン・スバルゴ
ーの『兒(じ)童(どう)の哀(あい)泣(きつ)』と題(だい)する書(しょ)には、一(ひと)人(り)の若(わか)き
母(はは)が出(い)産(さん)の殆(ほと)んど瞬(しゆん)間(かん)に至(いた)るまで、工(こう)場(じやう)を去(さ)るの
許(きよ)可(か)を與(あた)へられずして、遂(つい)に昏(こん)倒(たう)せるの慘(さん)狀(じやう)を報
告(こく)して居(を)る。我(わ)が國(くに)に於(お)いては、未(いま)だ如(か)く斯(ごと)き不(ふ)幸(かう)
窮(きう)迫(ぱく)の極(きよく)度(ど)に達(たつ)せざるを信(しん)ずるけれども、女(にょ)子(し)
の工(こう)場(じやう)勞(らう)役(やく)の増(ぞう)加(か)の傾(けい)向(かう)は、即(すな)ちこの種(しゆ)の悲(ひ)慘(さん)事(じ)
に到(いた)らずとも限(かぎ)られざる傾(けい)向(かう)なりと、憂(うれ)へざるを
得(え)ない。即(すな)ち茲(こゝ)に於(お)いて、工(こう)場(じやう)法(はふ)案(あん)の制(せい)定(てい)を見(み)、

また其(そ)の一(いち)層(そう)周(しゅう)到(たう)懇(こん)切(せつ)なる法(はふ)案(あん)の改(かい)善(ぜん)を希(き)望(ぼう)する
次第(さいだい)である。

而(しか)も、幼(えう)兒(じ)死(し)亡(わう)率(りつ)の現(げん)象(じやう)の解(かい)決(けつ)は、斯(か)の如(ごと)き法
定(てい)の力(ちから)を以(も)つてのみ完(ま)つた得(え)べきものではない、
普(ふ)通(つう)社(しゃ)會(かい)事(じ)業(ぎやう)として、一(いち)層(そう)、懇(こん)切(せつ)綿(めん)密(みつ)なる保(ほ)護(ご)
方(はう)法(はふ)を、之(これ)等(ら)の母(はは)と子(こ)との爲(た)めに講(かう)しなければ
ならぬ。これが即(すな)ち貧(まづ)しき母(はは)親(おや)に對(たい)する保(ほ)護(ご)機
關(くわん)の問(もん)題(だい)である。また一(はう)方(ほう)より云(い)へば、幼(えう)兒(じ)死(し)
亡(わう)防(ぼう)止(し)の運(うん)動(どう)である。

最(さい)近(きん)、ドクトル・スミス(スミス)の記(き)す處(ところ)によつて佛(ふ)蘭
西(せい)獨(どく)逸(いつ)其(そ)他(た)に於(お)ける此(こ)の種(しゆ)の施(せ)設(せつ)中(ちゆう)、懇(こん)切(せつ)を極(き)
るもの、三(さん)四(し)を紹(せう)介(かい)しようと思(おも)ふ。但(た)し吾(わ)人(じん)は其(そ)
の方(はう)法(はふ)に就(つ)いて學(まな)ぶのみならずして(國(こく)情(じやう)の相(さ)違(ちが)
から其(そ)の製(せい)用(よう)され難(がた)いこともあるし、先(ま)づ其(そ)の
周(しゅう)到(たう)を生(せい)む人(じん)道(だう)的(てき)愛(あい)心(しん)に敬(けい)嘆(たん)を禁(きん)じ得(え)ないのであ
る。諺(ことわざ)に曰(い)く、『愛(あい)あり即(すな)ち行(ゆ)き届(とど)く』。

佛蘭西は、其の驚くべき人口非増加の事實が、因となつたものか、母の爲め及び幼児死亡防止の運動が最も早く起つた國である。其の第一をなすものは、千八百七十六年マダム、ブケー、ド、ギヤンヌに依つて、創設せられた『母育會』と稱する個人の慈善會である、其の目的は乳兒哺育の母を助けて、食物、牛乳、醫藥、衣服、その他乳兒の爲めに必要なものを給するにある。此の協會には篤志者よりなる一團があつて、絶えず貧民の家庭を訪問して、母と乳兒の爲めに、其の缺乏を慰問して、若し要するものあれば、これを供給するのである。而もこれ等の訪問を受ける家庭は、多くは極貧の家であつて、些少の手當をだに自給するの餘裕ないものであるからして、母育會と聯合協力せる『家庭母の會』の助けを借りる。此の會には産期の婦人及び産後の婦人の爲めの、二個の休養所が設けてある。前者は産期前三四ヶ月の母親

を容れて、彼れ等の攝生に適當なる輕き職業を與へる。此處で産期に達した者は、出産院に入つて分娩して再び第二の休養所に於いて休養する。母育會には、また無料給食所があつて、代價を拂ひ能ざる、乳兒哺育中の母親に、無料で食物を給する。此の慈善團は千八百八十年に有益なる公共事業として、政府に認められ、現今に於いては、佛蘭西中に數個の支部を有し、設立以來、其の保護を蒙つた兒童數四萬五千、また其の休養所の恩恵を蒙つた母の數一萬四千の多きに上つて居る。

これと聊か趣きを異にする施設は、千八百九十二年にバリー大學の産科教授ドクトル・ピエール・ビュダンによつて、設立された『育兒相談所』である。これは佛蘭西に於ける母の爲めの第一の學校であつて、其の目的は幼兒を世話するのみならず、正しき法に於いて育兒の實を擧げ得るようになら母を教育するにある。初めはバリーの慈善病院に

於いて始められたのであるが、其の効果は直ちに世の認むる處となつて、パリ以外多くの都市に普及するに至つた。而してパリに於ける勞働者の階級の幼児死亡率が、二割五分乃至三割の高率を示して居る時に、慈善病院に於ける此相談所内の死亡率は、殆んど零であつたといふことである。此處に於いては母乳哺育を奨勵して、努めて之れを實行せしむるの方針をとつて居る。

此の事業が行はれて居る間に、フエーコンにも偶然同様な施設が起された。即ち同地の醫師ドクトル・デュフルは、其の市に於ける幼児死亡率の大なるを憂いて、『牛乳供給所』を設けた。素より普通の場合に於いては、努めて母乳哺育を奨勵するけれども、其の不十分或は不可能なる場合に、適當に調合せられたる牛乳を供給せんとするのである。又、健康兒童に就いても、病兒に就いても喜んで育兒上の相談を受け、乳兒の生長が不満足

なる如き場合には、これに醫學上の手當を與へ、また學理上完全なる育兒法の知識を母達に教ゆる此の設備の起されなかつた前には、同市に於ける幼児死亡率は、二割一分乃至二割三分であつたのが、此の運動が開始されて以來、明かに半減せられたと云ふことである。

パリに於ける『相互母の會』はマダム・カルノによつて創められた。夫人の同情は巴里の貧婦人が妊娠中も尙ほ勞働しなければならぬ貧窮の狀態に對して默視するに堪えなかつたのである。其の初めは裁縫職及びリース職に限られて居たが千九百二年に至つて、巴里に於ける總ての勞働女子及勞働者の妻を含む様になつた。現在では巴里以外の都市にも及んで千九百八年には第一回の全國總會を開き、會員數は約參萬の多數に達して居る。尤も此の中には此の會を贊助して、寄附金だけをする人もあるが本會員は協同會員と稱して、勞

働女子若くは勞働者の妻に限られて居る。其の人々は一年に三フラン（一フランは我國の凡そ四十錢）づゝを納める。そうすると、産をした時に、家庭の事の他もしないで、一週間に十二フランづゝ、四週間の間會から貰ふことが出来るのである。尙ほ六人目以上の出産の場合には十五フランづゝに割増しせられ、双子の場合には十八フランづゝを貰ひ得られる。而して此の金の拂ひ渡し方がまた面白い。即ち初めの三週間は、會の賛助員中の誰れかが懇な訪問によつて持つて行つてやる。但し、此の訪問役は、必ず子供のある人で、彼の哺育相談所の醫師によつて教育せられた婦人に限ることになつて居る。金を持つて行くのであるから何處の家でも喜び迎へる。即ち産婦と懇意になる。そこで育児上の注意は勿論家計上の注意まで立入つて存分に教へることが出来る。殊に斯ういふ訪問は一面に於ては、巴里の上流と下流と

の社會的階級間の懸け橋になる効があつて、此の兩者の關係は、番にその時限りでなく、後々長い間の懇意な間柄になることが多いのである。處で、第四週目からは産婦自ら近所の哺育相談所へ行く、巴里全市に行き涉つて五十五ヶ所もあるのであるから、何處に住むものにも大した距離ではない。而して、其處で子供を見て貰つて、四週間の育て方の成績のよいものは十フランの賞與金を與へられる。尙ほ二年間はつとめて屢々子供を連れて來ることを奨めて、其の時々健康を調べて貰ひ、若し必要ならば醫療なり、忠告なり相當に與てられる。斯ういふ風で、次第に母親同志の間に育児の競争さへ起つて、もつと富裕な家庭の子供よりも却つて育児上の成績の良い様なことが常に起るといふことである。

三

獨逸は總て學問的に試みる。此の方面の問題に

於いても亦同じである。

カイゼリン・オーグステ・キクトリア・ハウスは、此の方面の唯一の機關であつて、母及び嬰兒に關する一切の問題を調査研究する。殊に健康兒童の出生及び生育の、最上條件を科學的に規定しようとする云ふことを最後の目的として居る。二十世紀の初めに於いて、獨逸に於ける一歳以下の幼兒の死亡率平均は、出生數に對して二割であつた殊に最も惡き事情の地方にあつては、四割七分の高率に上つた、此の驚くべき死亡率は獨逸皇后陛下の危憂せらるゝところとなつて、其の道の者に御下問の結果、千九百〇七年に於いて、此の協會の設立を見るに至つたのである。即ち伯林外廓シヤロットンブルグに地を卜して、二億弗以上の大建築が、其の本部として建てられた。其基金は獨逸各州及び各人の寄附にかゝつて、尙維持費の寄附を續けられて居るのである、ドクトル・スミス

が此處を訪ふた時は、四十人の母と八十人の嬰兒とが收容されて居たといふことである。此の協會内には第一搾乳場があつて、最も衛生的設備のもとに牛乳が搾らるゝ。其の目的は此の搾乳場に於ける牛乳を以つて、此の協會に使用するところの牛乳の總を供給せんとするにあつたのであるが、目下は其の需用の大なる爲め、一部分は他より購入して居るといふことである。而して此處には嬰兒の衛生に關する一切の問題の完全なる研究所が備つて居るが故に、此の實際上には好ましからざる二重の供給も、また問題の研究の爲めには都合よき材料ともなつて居る。此の協會の元來の目的は科學的にあるけれども、事實の上に於いては、貧窮なる母親達に對する大なる慈善となつて居る。初めの計畫に於いては、分娩前數ヶ月及び分娩後數ヶ月收容して、其の間十分なる研究を試みるにあつたが、實際上には斯の如きとは困難

であつて、分娩前二週間に於いて、此の協會に來り、分娩後數ヶ月止るを例とした。而して此の數ヶ月間に於いて、育兒及び一般衛生の簡單なる教育を與へられるのである。尙此處には育兒實習の學校が附屬して居て、初生兒の擁護、食物の調製、衣服の製法子供取扱方及び衛生の一般に就いて教へらるゝ、此處に於いて養成せらるる乳母は、其の卒業前數ヶ月の間、一人の子供に就いて一切の世話を實習せなければならぬ。修業年限は共に同じであるが、高等級と普通級との別があつて、高等級は千二百瑪の修學費を納め、獨逸語以外の外國語を少くも一つは話し得なければならぬ。而して卒業後は所謂高級乳母となることが出来る。普通級の方は無料である。彼等はまた、兩級生ともにフレールベル・ペスタロッツェハウス（ベルリンにある大いなる幼稚園保姆傳習所）の教師によつて、幼兒保育上の正式な教育を受ける。

尙ほ此の協會では、之れ等實際上の施設の他に、種々の問題が討究調査せられる、政府の兒童保護問題、公共團の幼兒保護問題、棄兒問題、出生及天死の統計、結核問題、貧母の保險及保護の問題、牛乳供給問題、牛乳に對する検査及官憲監督の問題、乳母問題、助産婦問題、兒童保護法案の問題等。その他の問題に抄つて居る、又『乳兒保護時報』と題する月刊雜誌や、時々の研究報告が公開せられて居て、創設以來未だ日の淺いに拘はらず、今や獨逸のみならず、他の國々に迄も、此の種の事業の中心たるの觀を呈しつゝある。

四

ベルヂェニームのゲントにあるドクトル、ミールの事業に至つては、その周到なること更に感嘆に堪えないのである。ゲントは十六萬二千の人口を有する都市で、其の多數は織物工場及職工である。結婚した女子も多く工場に雇はれて、それに勞働

時間が長く、賃銀が廉いといふのであるから、嬰兒死亡率は自然多くなる、凡そ十年前位まではゲントに生れた子供は三分の一以上は、一歳にならぬ中に死といふ有様であつた。之れではならぬと思つたのがドクトル・ミールである。調べて見ると其の原因は貧窮と、無智と、社會的壓迫とにあるといふとが分つた。そこで千九百一年ドクトルが第一着に創めた仕事は貧しき母と赤坊の爲に無料診察をする事であつた。初めの間は病氣、殊に甚だしい病氣の子供しか連れて來られなかつた。病氣でもない子を醫者さんに診て貰ふ必要はないといふ、彼等の考へであつたのである。處が次第々々に親切なドクトルの眞の目的が皆に理解せられて來た。子供の病氣を治すばかりでなく、平生をよく育てなければならぬといふ思想が理解せられて來た。之れは貧しい母達には意外の新思想であつたが、それが段々と彼等の心に染み込んで育

兒思想が發達するようになった。ドクトルの主義としては、出來るだけ母乳哺育を奨励して、止むを得ざる場合のみ人工營養の處方を與へた。然し困難なる點はゲントに於いて、新鮮なる牛乳を得るの困難と、假令これを得るも母達の貧困にして購求に堪え得ないことであつた。こゝに於て慈善局の助けを得て、極貧者に對して牛乳が無料に給與された。斯の如して其の效果は、急速の發展をなし、現在に於いては年々千以上の嬰兒が此の療院に連れて來られる。而して其の死亡率は四割以下殊に一昨年に於いては三割を下つた。質素なる建築の施設所は相離れた二棟から出來てゐる。其の一は母親と赤ん坊の診療をする處、其の一は結核患者に對する診療所である。第一の方では一週に三日、日を定めて育児上の相談に應ずることになつて居る。午前は十時から十一時、午後は四時から八時まで、大勢の母達が赤ん坊を連れて來

る。赤ん坊は體量を計られたり、必要の注意を與へられたり、又若し要すれば、藥劑の處方が與へられる。

此處ではまた、一般母達の爲めに、通俗な衛生講話が開かれる。赤ん坊の湯の使はせ方から、衛生的な子供の着物、廉價で滋養に富む兒童營養品の作り方など、幻燈を用ゐて判り易く話されるのである。

此處ではまた、育児の實修科があつて、將來、工場に働く母達の子供を預つたり、或は貧民幼兒預所の一員とならうとする人の爲めに、平易なる學理と實地の練習から、廉く上手に子供を育てる方法が教育せらるゝ。

實にドクトル、ミールは、科學の利劍を用ゐて貧困の惡魔と戦ふ人道の勇士である。彼れの十年間の業事は其の全般の困難を打ち勝つて、後年に於いては次第に其の活動を容易ならしめ、其の効

果を益々大ならしめて居る。人あつて、斯の如き大事業は、宜しく著述として世に公にしたらよからうと言へば、彼は子供の爲めに忙しくて其んな閑がないと云ふ。

五

ドクトル、ミールは、自ら筆をとつて、其の事業を公表したことはないけれども、斯の如きことの事業は世に傳はらずしては止まない、即ち此の例に倣つて第一の施設は、英國に於けるセント、パングラスの『母學校』である。千九百〇七年倫敦のカルトン街に建てられたのがこれである。元來其の邊りは露店の多い町で、古着、古野菜、惡臭ある肉店等の間を、憔悴した不潔な人々が、失意の顔をして、逍遙ふて居る處である。斯の如き土地に於て、清潔と、整頓とを教ふるは、實物教授に過くものはない、奇麗な室に相談所が開かれ、子供をつれて來る母達の爲めに、育児上の親

切な注意が與へられる、又其の上に廉くてうまい
滋養食物の調理法が教へられる。また之れが倫敦
市役所と聯絡して、廉價若しくは無料の食料品供
給も行はれて居る。

六

以上、此の方面の解決法は、要するに二つに別
れる。(一)物の不足を給養してやることである。
(二)出産及び哺育上の無智を導き教へてやること
である。知識の啓發ばかりで如何ともすることが
出来ぬように、物の施與ばかりでは、其の効果が
何時も底ぬけの籠になる。何時まで經つても遂に
完ふせられないのである。貧民救済の業は皆そう
であるが、わけても貧民嬰兒保護の問題に於て、
知識啓發の必要が殊更ら多い。天下多數の貧民の
母がたい簡單な衛生の理を知らず、容易な育児の
方法を知らない爲めに、見す／＼どの位多數の嬰
兒を失つて居るであらうか。

物は比較的物だけで與へることが出来る。然し
教ふるには全然親切な心からでなくては出来ぬ。
育児相談所の應對にしても、戸毎々々の訪問にし
てもそれが真に行き届き、真に効果あらしめるた
めには、やさしい心の働きに俟たなければ出来な
い。

貧民を無料で診察して、無料で物を施したとて
それで救貧の實を完ふし得られるものではない。
これが必ず彼れ等の知識啓發と相伴はねば、形が
あつて心のない慈善となつてしまふ。貧民の母を
救つて其の子を救ふ第一の法は何か、かうして卿
の子を正しく育てよ」と、彼等の頭と胸とに教へて
やるにある。